

社会力を育む道徳

一 重点目標の見直しと年間指導計画の作成 一

1 これまでの取り組み

平成19年度より11年間の子どもの発達を視座におき、幼稚園の遊びや生活の中に、意図的、計画的に道徳性の芽生えが培える場面をとらえ指導を行ったり、小・中学校の道徳の時間を活性化する具体的な手立てについて考察したりしていった。平成19年度は、「豊かな『社会生活』を創造する」子どもの姿を、「追求して学ぶ姿」、「思いやりのある姿」、「集団の一員としての姿」の3点から整理していった。「道徳」領域では、「思いやりのある姿」というカテゴリーを、道徳教育の実践からどのように追究していけばよいのか、という視点から道徳の授業を構築していこうと考えた。平成20年3月には新学習指導要領が公示された。この改訂された新学習指導要領を踏まえて、全体計画を見直す必要が出てきた。

そこで昨年度は、道徳領域で育てたい社会力を教育研究ブロックごとに「思いやりの心」の育成を中心とした重点目標とし、全体計画のあり方を検討し、11年間のつながりを意識した道徳指導のあり方を検討した。まずは各学校園にある道徳教育の全体計画を、「思いやりの心」の育成に視点をあてて整理した(図1)。また、「思いやりの心」の育成を中心とした11年間の道徳教育のあり方を表にまとめた。このように教育研究ブロックごとに「思いやりの心」の育成を中心に重点目標を見直した結果、それぞれの教育研究ブロックで重点にすべき点が見えてきた。

○昨年度整理した11年間の取り組み

【初等部前期】

家族以外の集団である幼稚園での生活、小学校での生活を初めて体験するこの段階の子どもたちにとって、基本的な生活習慣を身につけることは、とても大切なことである。この時期に身につけた基本的な生活習慣は生涯にわたってあらゆる行為の基盤となり、物事に対する意欲やかかわりを支える上で欠くことのできないものとなる。

基本的な生活習慣を身につけることは、思いやりの心を育てるためにすべての教育研究ブロックでの土台であると考え。自分のことが自分でできるという土台があってこそ、他者への思いやりの心も育まれると考えるからである。その中でも特にこの初等部前期という段階において、「健康や安全に気をつけ、規則正しい生活習慣を身につけること」に重点をおくことによって、次の段階で、自分の生活を見直し、よりよくしようとする主体性のある自己形成へとつながる。また、この時期に、身近な人とかかわる中で、助けを借りながら健康や安全に気をつけていくことで、安心感も生まれ、安定した集団生活を送ることができるであろう。安心感の中で少しずつ身近な人と仲良く助け合い、約束やきまりを守ることができるようにすることで思いやりの心が芽生え、育っていくと考える。

【初等部後期】

この段階の子どもたちは、集団生活にも慣れ、人とのかかわりが深くなっていく。相手の気持ちをより深く理解できるようになるため、温かい心とともに、相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になる。相手の状況や困っていること、大変な思いをしていることなどを思いめぐらせることによって、相手の立場に立って考えることができるように指導していくことが大切である。また、この段階においては、気の合う友だち同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向がある。集団での活動などがこれまでになく盛んになる時期であるが、自分の利害に基づく衝突も多く見られる。このような特性から、この段階においては、健康的な仲間集団を積極的に育成していくことが大切であり、友だちのことを互によく理解し、信頼し、助け合うことを中心として指導する必要がある。

本学校園では、この時期から宿泊研修が始まる。学級から学年の仲間に集団が広がることで、より豊かなかかわりが生まれ、助け合いや協力の心が育つと考える。友だちの立場を理解したり、自分と異なる考えを受け入れたりすることを大切に、学級や学年の友だちと生活を共にすることで育った相手の立場を思いやる心は、身近な集団への積極的な参加を促し、主体的に責任を果たす基盤となるであろう。

さらに、相手の立場を思いやる心が相互に育てば、他者の思いやりに触れる機会もしばしばあるであろう。そして、次の段階の心の高まりにつながるであろう。

【中等部】

心身ともに発達著しく、思春期に入ったこの段階の子どもたちは、活力にあふれ意欲的に活動する。それゆえ、身に付いていた規則正しい生活習慣が乱れることがある。さらに、そこから心の健康を害し、健康を損なうことも見られる。気力と活力に満ちあふれた生活を過ごすためにも、身に付いていた規則正しい生活習慣を維持させることが重要である。そして、心身の調和のとれた生活ができることが基盤となり道徳性が養われていくであろう。

この段階の子どもたちは、身近な集団とのかかわりからさらに大きな集団とのかかわりへと広がる。児童会や生徒会による自治的な活動が盛んになったり、学校行事を子どもたちが企画し、準備から運営まで行う機会があったりして、学校集団とのかかわりの中で生活している実感が深まる。また、総合的な学習の時間で地域の方々とふれあいながら学習を進めることで、地域社会とのかかわりの中で生活している実感も深まる。このように生活の実感を通して子どもたちは相手の立場を思いやりながら、自分の役割と責任を自覚して、自分の仕事を成し遂げる経験を積み重ねていく。そして、自分が集団に対して貢献している喜びを得、自らの充実感として体得していく。しかし、忘れてはならないのは、多くの人の協力に支えられて成し遂げることができたことを忘れてはならない。したがって、そのような他者の思いやりに互いに触れていることに気づかせるよう指導する必要がある。多くの人の善意や支えに気づくことで、子どもたちは感謝の念を抱き、そこから主体的な奉仕の心へ発展していくと考える。それが社会力のみならずともなっている心情として大切なものとする。

2 今年度の取り組み

平成20年の学習指導要領の改訂では、教育活動全体を通じて行なわれる道徳教育を補充・深化・統合する要としての道徳の時間について明確にされたとともに、各教育活動の中で行なわれている道徳教育と内容項目との関連も明確にしていく必要性が示された。今年度は「社会力」を育てるための研究領域の関連性を考え、次の三つの取り組みを行なった。

①指導重点目標の見直し

来年度から社会力の育成に関わる実践・検証を目指し、道徳の授業だけでなく「保育・生活・総合」や「特別活動」の活動でも「思いやりの心」に視点をあてるために、それらの活動に対して道徳の指導重点目標を設定しようと考えた。そのため昨年度作成した重点目標をもう一度見直す必要がでてきた。

昨年度、初等部前期は「健康や安全に気をつけ、規則正しい生活習慣を身につけること」に重点をおいた。昨年度の取り組みにおいて述べたように「思いやりの心」を育てるために、基本的な生活習慣はすべてのブロックの土台であり、健康や安全に気をつけていくことで安心して集団生活を送ることができるともとても大切なことである。そこで基本的な生活習慣や健康・安全に過ごすことは「思いやりの心」を育成するための前段階であり、全ての学校園活動における土台となるものであると考えた。相手のことを思いやるためには、自分のことがきちんとできないと相手に気を配れないし、健康・安全に生活できているからこそ、他を思いやることができるからである。そのため、初等部前期の重点目標を見直す必要があると考えた。各ブロックのつながりを意識し、初等部前期だけでなく、初等部後期・中等部ブロックにおいても、もう一度目標の見直しを図った。

そして、教育研究ブロックごとに目標を「自分を思いやる」「仲間を思いやる」「社会を思いやる」の三つに分けて考えた。更に各ブロックの中でも重点目標を初等部前期では「自分を思いやる」に、初等部後期は「仲間を思いやる」に、中等部では「社会を思いやる」とし、成長するにしたがってより広い範囲で人とつながるための「思いやりの心」の育成を重要視した。このようにして作り直したものが203ページにある図2である。

②道徳的視点から幼稚園の年間指導計画の作成

幼稚園において「道徳」の授業はない。それは、日々の生活が基本的な生活習慣を身につける場であ

る。普段から幼稚園の遊びや生活の中に、意図的、計画的に道徳性の芽生えが培える場面をとらえ指導を行っている。しかし、11年間をとらした道徳教育のあり方を検討する中で、幼稚園の様々な活動を「思いやりの心」を育むという視点から見つめ直そうと考え、「思いやりの心」を育てることができる各活動に指導重点目標を設定した。

幼稚園における道徳的視点からの年間指導計画を作成するにあたり、11年間を統一した指導計画を作成したいという意図から、まず道徳的価値項目についてどのように設定すべきか考えた。そこで、幼稚園の教育要領に示されている領域である「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」に着目し、これらを道徳的価値として考えた。人とかかわりに関する領域である「人間関係」のねらいの一つに「身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ」がある。これは小学校低学年の道徳的価値である、「2-(2) 温かい心、親切」や「2-(3) 友情、助け合い」とつながるものである。このように考え、道徳的視点から幼稚園の年間指導計画の作成を行なった(図3)。初めて作成するものなので、来年度実施・検証する中で検討・修正をする必要があると考える。

③各ブロックの年間指導計画について

11年間を見通し、「保育・生活・総合」「特別活動」の活動と道徳の授業を重点目標という視点でつなぎ合わせるため、各学年の年間指導計画を作成し直した。また、11年間を通して基本的な生活習慣の定着を目指し、附属学校園の生徒支援部で行なわれている「マナーアップ」にも関連するように配慮した。「マナーアップ」はあいさつ・通学・聴き方・話し方・そうじについて焦点をあてて取り組む活動である。そして、「思いやりの心」を育むための授業に道徳の重点目標を設定した。もちろん「思いやりの心」以外にも育てたい心情があるのですべての道徳の授業に重点目標をあてはめてはいない。各ブロックの最高学年の年間指導計画の一部を紹介する(図4)。

今年度はこの三つの取り組みを行なった。人とつながり、よりよい社会を築いていくためには、他の人や集団・社会に対して「思いやりの心」をもってかかわることが大切であると考え。人と触れ合うとき、接するときの大切な心情面の一つが「思いやりの心」だからである。もちろん、根本において自分も他の人も、ともにかけがえのない人間であるということをしかりと自覚できるようにすることも大切である。各ブロックの最高学年を終えたとき、各ブロックで目指す「思いやりの心」が生まれ、思いやりをもって行動することができる子どもの姿を想像し、来年度、実施・検証していきたい。

3 今年度見えてきたこと・来年度への展望

重点目標の見直しや他領域との関連、年間指導計画の作成をする中で、「思いやりの心」を育てるためには道徳の授業だけでなく、様々な活動を通して体験することが必要となることを見えてきた。「思いやりの心」を育てるためには、助け合いながら何かを達成していくような機会や、互いに支え合う経験を積み重ねていくことが大切であり、そのようなことを積み重ねることによって、他者の思いやりに触れ、それを素直に受け止めたとき、自分が現在いるのは多くの人々によって支えられてきたからであることを自覚するようになる。つまり、他領域の活動で感じたことを道徳の授業で追体験・再体験したり、道徳を通して考えたこと・感じていたことを各活動時に再び感じ取ったりすることで深化・補充・統合が行なわれ、「思いやりの心」が育まれる。

また、道徳は「思いやりの心」の育成だけでなく、その他の道徳的心情を育てるためにも、すべての教育課程の要になるということも見えてきた。「思いやりの心」だけでなく、その他の心情も同様に体験などによって裏打ちされて腑に落ちていく。

そして、基本的な生活習慣の育成がどの活動・学年においても根底にあり、心情を育てる以前に大切なものであることもわかった。

思いやりをもって人と接し、人とつながり、よりよい社会を築いていく子どもたちの姿、すなわち、よりよい心情をともなって社会力を発揮する子どもたちの姿を想像して、来年度は今回作成した年間指導計画をもとに道徳の授業を実施し、「道徳」と「保育・生活・総合」、「特別活動」との深化・補充・統合について検証をしていきたい。

(文責 安野 洋)

図1 全体計画

附属学校園における道徳教育

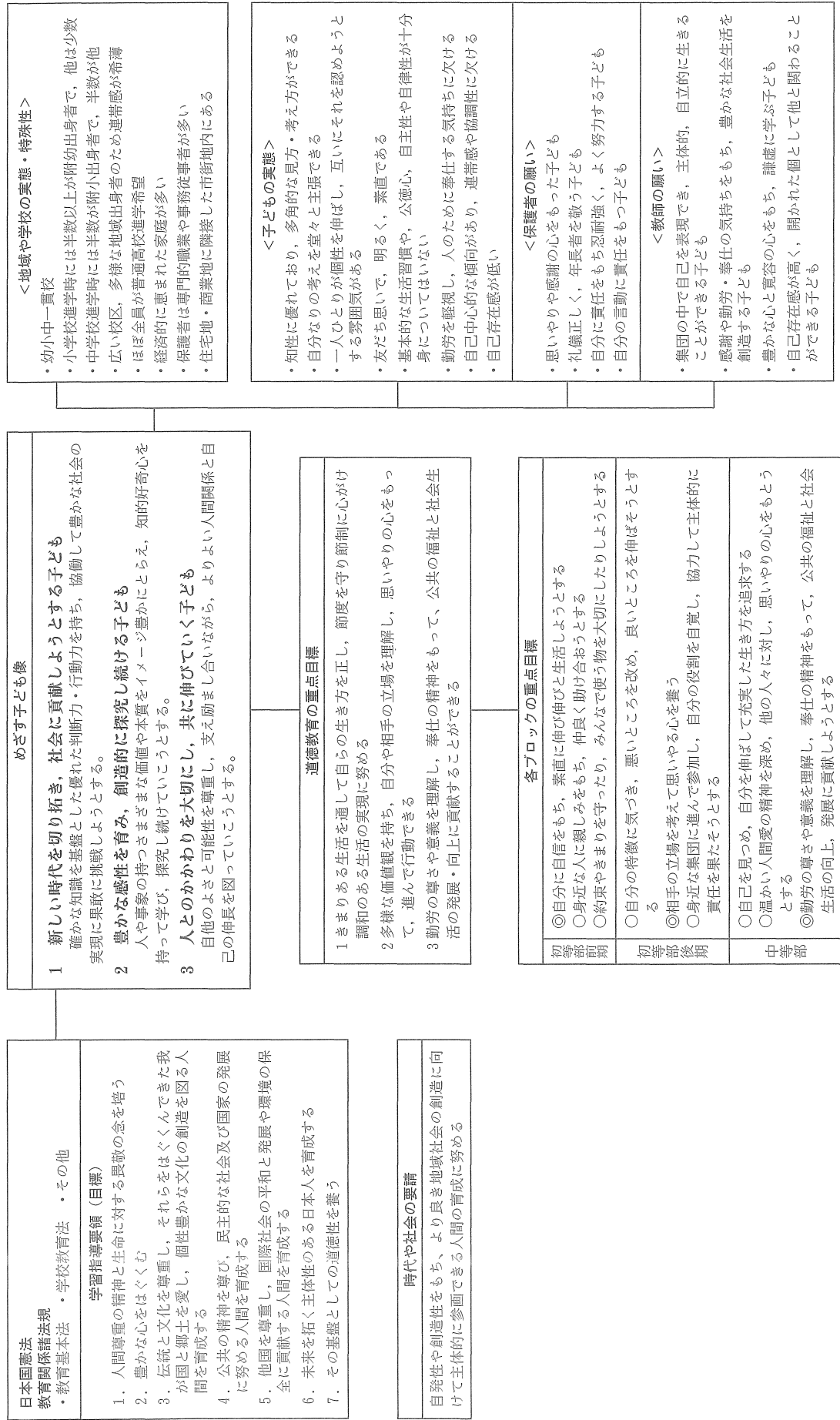


図2 「思いやり」を中心とした11年間の道徳教育のあり方

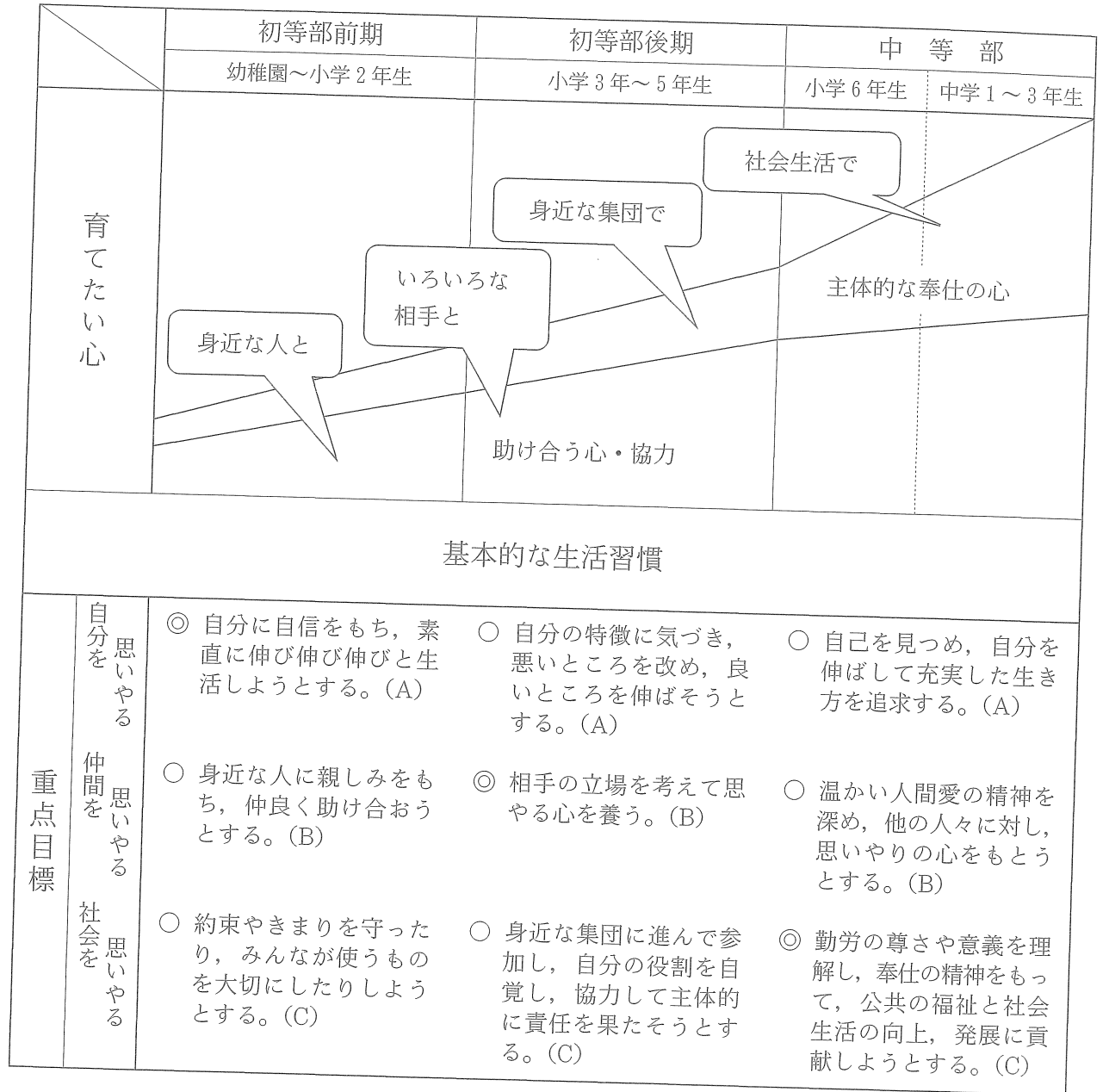


図3 道徳的視点からの幼稚園（4才児）の年間指導計画（一部）

| 附属学校園教育目標 | | 幼稚園教育目標 | | | |
|--|------------|--|-----------|--------------------------------------|------|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい時代を切り拓き、社会に貢献しようとする子ども ○ 豊かな感性を育み、創造的に探究し続ける子ども ○ 人とのかかわりを大切に、ともに伸びていく子ども | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自力で遊びをみつける子ども ○ 心ゆくまで遊びきる子ども ○ 友だちとなかよく遊ぶ子ども ○ 豊かな感性と心情をもつ子ども | | | |
| 道徳重点目標 | | | | | |
| <p>A 自分に自信をもち、素直に伸び伸びと生活しようとする。</p> <p>B 身近な人に親しみをもち、仲良く助け合おうとする。</p> <p>C 約束やきまりを守ったり、みんなが使うものを大切にしたりしようとする。</p> | | | | | |
| 月 | 行事 | 主題名 | 内容項目 | ねらい | 重点目標 |
| 5月上旬～6月下旬 2期 | 附属学校園合同集会 | みんなと一緒に歌や手遊びを 楽しもう | 人間関係 2 | 周りの友だちに関心や親しみをもつ。 | B |
| | マナーアップ（通学） | 合同集会に参加しよう | 人間関係 2 | 附属学校園のお兄さんやお姉さんに関心をもつ。 | B |
| | | 生き物と関わって遊ぼう | 環境 1・2 | いろいろな生き物を見つたり遊んだりして関心をもち、命があることに気づく。 | A |
| | | いろいろな友だちと気に入った遊びをしよう | 人間関係 2 | 友だちの遊び等に触発されながら、遊びの内容や場所・遊び方を広げていく。 | A |
| | | | 人間関係 2 | 自分の気持ちを素直に出したり、相手の気持ちに気づいたりする。 | B |

図4 各ブロックの最高学年の年間指導計画（一部）

初等部前期（小学2年）

| 附属学校園教育目標 ○ 新しい時代を切り拓き、社会に貢献しようとする子ども ○ 豊かな感性を育み、創造的に探究し続ける子ども ○ 人とかかわりを大切にし、ともに伸びていく子ども | | 学校教育目標 ○ 自分で考え、判断し、行動する子ども ○ 心と体をきたえ、ねばり強くやりぬく子ども ○ 互いに励まし合い、助け合う子ども | | | |
|---|------------|--|-------|---|------|
| 道徳重点目標 A 自分に自信をもち、素直に伸び伸びと生活しようとする。 B 身近な人に親しみをもち、仲良く助け合おうとする。 C 約束やきまりを守ったり、みんなが使うものを大切にしたりしようとする。 | | | | | |
| 月 | 行事 | 主題名 | 内容項目 | ねらい | 重点目標 |
| 5 | 附属学校園合同集会 | 学校大すき | 4-(4) | 学校の人々に親しんで学級や学校の生活を楽しくしていこうとする心情を養う。 | C |
| | マナーアップ（通学） | 正しいことは勇気をもって | 1-(3) | よいと思ったことは進んで実行しようとする心を育てる。 | A |
| | | しょうじきなこころ | 1-(4) | うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活しようとする態度を養う。 | A |
| 6 | 全活「子どものお店」 | 思いやりをもって | 2-(2) | 幼い人や困っている人など、身近にいる人に思いやりをもち、親切にしようとする心情を育てる。 | B |
| | プール開き | いのちのつながり | 3-(1) | 生きているものは次の世代に生命が受け継がれていることに気づき、生命を大切に思う心情を深める。 | |
| | 芋苗植え | わたしのだいじなあげは | 3-(2) | 身近な自然に親しみ、優しい心で接しようとする心情を育てる。 | |
| | 授業研修会 | わたしたかぞく | 4-(3) | 自分のわがままをおさえ、家族の気持ちを考えることの大切さがわかり、進んで家族のためになることをしようとする気持ちを育てる。 | C |

初等部後期（小学5年）

| 道徳重点目標 A 自分の特徴に気づき、悪いところを改め、良いところを伸ばそうとする。 B 相手の立場を考えて思いやる心を養う。 C 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たそうとする。 | | | | | |
|--|------------------|--------------|-------|--|------|
| 月 | 行事 | 主題名 | 内容項目 | ねらい | 重点目標 |
| 5 | 附属学校園合同集会 | みんなと伸ばす自分の力 | 1-(6) | 自分の特徴や課題を知って、友達などの協力を得ながら積極的に自分の能力を伸ばしたり、弱点を克服したりしようとする心情を育てる。 | A |
| | マナーアップ（通学） | とうとい命 | 3-(1) | 生命の尊さを理解し、生命を大切に力強く生きようとする態度を育てる。 | |
| | | 公共物を大切に | 4-(1) | 社会生活をよりよくしようとする心の大切さを知り、法や決まりを守ろうとする。 | C |
| 6 | 全活「子どものお店」 | だれもが大切な人ばかり | 4-(2) | だれに対しても差別することや偏見をもつことなく、公正・公平に接しようとする心情を育てる。 | C |
| | プール開き | おたがいを大切にしながら | 2-(3) | 互いに信頼し、男女仲よく協力し助け合おうとする心情を深める。 | B |
| | | みんなの力で | 4-(3) | 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して責任を果たすことの大切さを自覚させる。 | C |
| | 授業研修会 | 自然を壊してはならない | 3-(2) | 人間も自然の中で生かされていることを考え、自分にできる範囲で自然環境をよりよくしようとする態度をはぐくむ。 | |
| 7 | 全活「夏祭り」・臨海学校 | 気持ちのよいあいさつ | 2-(1) | その場に合った言葉を使い、気持ちのよいあいさつができるような心情を育てる。 | B |
| | 終業式・マナーアップ（あいさつ） | きょう土を愛する心 | 4-(7) | 郷土のもつ美しさへの感謝を大切にし、郷土の美しさを再発見し郷土を愛する心情を育てる。 | C |

中等部（中学3年）

| 附属学校園教育目標 ○ 新しい時代を切り拓き、社会に貢献しようとする子ども ○ 豊かな感性を育み、創造的に探究し続ける子ども ○ 人とかかわりを大切にし、ともに伸びていく子ども | | 学校教育目標 ○ 新しい時代を切り拓き、社会に貢献しようとする生徒 ○ 豊かな感性を育み、創造的に探究し続ける生徒 ○ 人とかかわりを大切にし、共に伸びていく生徒 | | | |
|--|-------------|---|-------|---|------|
| 道徳重点目標 A 自己を見つめ、自分を伸ばして充実した生き方を追求する。 B 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し、思いやりの心をもとうとする。 C 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会生活の向上、発展に貢献しようとする。 | | | | | |
| 月 | 行事 | 主題名 | 内容項目 | ねらい | 重点目標 |
| 5 | 附属学校園合同集会 | いじめを許さぬ心 | 4-(3) | いじめの愚かさを知り、差別、偏見を憎み、不正な言動を断固として許さない態度を育成する。 | C |
| | マナーアップ（通学） | 法の理解と遵守 | 4-(1) | 法の意義を正しく理解し、自ら権利を行使し義務を果たすことで社会の秩序と規律を高めようとする態度を育成する。 | C |
| | | 日本人としての自覚 | 4-(9) | 日本人としての自覚を深め、国としてのよりよい在り方を考え、国家の発展に努めようとする実践意欲を培う。 | C |
| 6 | 性教育 | 思いやりの心 | 2-(2) | 思いやりの根底にある人間への深い理解と共感を認識し、人間愛に満ちた心情を育てる。 | B |
| | 市総体 | 愛校心 | 4-(7) | 学校に所属する一員としての自覚を深め、皆と協力しよりよい校風を築こうとする心情を育てる。 | C |
| | 球技大会 | 正しい異性理解 | 2-(4) | 異性についての正しい理解を深め、それぞれのよさを認めながら互いに高め合おうとする態度を育成する。 | B |
| | | 郷土を愛する心 | 4-(8) | 自分の住む地域社会への認識を深め、郷土を愛し、その発展に貢献しようとする実践意欲を培う。 | C |
| 9 | 始業式・運動会 | 役割の自覚 | 4-(4) | 所属する集団の一員であることの自覚を深め、役割を認識し、その責任を果たそうとする態度を育成する。 | C |
| | マナーアップ（聴き方） | 謙虚な心 | 2-(5) | 相手の立場や考え方を尊重し、謙虚な広い心で他に学ぼうとする態度を育成する。 | B |
| | | 生きる喜び | 3-(3) | 内なる弱さや醜さと闘い、自己を奮い立たせることで、生きる希望や喜びを見出そうとする心情を育む。 | |
| | | 夢を追い求める心 | 1-(4) | 目的や目標をもち、理想を求めて、力強く積極的に自己の人生を切り拓こうとする実践意欲を培う。 | A |